

令和6年度いしかわ森林環境基金事業 評価報告書

令和6年11月7日

いしかわ森林環境基金評価委員会

いしかわ森林環境基金評価委員会意見

1 意見

令和5年度の「いしかわ森林環境基金事業」の主な取組と実績については、適切であり、引き続き、放置竹林の除去や緩衝帯の整備、県産材の利用促進による森林の公益的機能の確保、及び県民の理解と参加による森づくりの推進に努められたい。

2 付帯意見

今後、いしかわ森林環境基金事業の執行等に際し、以下の点について、適切に対応されるよう申し添える。

- (1) 放置竹林整備について、安全対策費の追加等により110ヘクタールの計画量に対し、実績が70ヘクタールとなっているが、今後とも、労働安全対策に配慮しつつも、予算の確保などにより計画量の達成に努めること。
- (2) 県産材利用促進について、住宅助成における県産材使用量が減少傾向にある中、引き続き、一般住宅への県産材利用を促進するとともに、能登半島地震に関連する復興需要に対しても県産材の供給力強化を進めていくこと。

令和5年度取組実績

I 森林整備 409,848 千円

- | | |
|--------------|------|
| (i) 放置竹林の除去等 | 70ha |
| (ii) 緩衝帯整 | 14地区 |
| モニタリング調査等 | 1式 |

II 県産材利用促進

- | | |
|---|----------|
| (i) いしかわの森で作る住宅推進事業
・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成 | 34,959千円 |
| (ii) いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業
・県産材使用の模範となる民間施設への助成 | 37,112千円 |
| (iii) いしかわの木づかい運動推進事業
・県産材の利用促進に向けた機運醸成 | 5,678千円 |

III 普及啓発

- | | |
|--|----------|
| (i) 森林や木材利用に対する理解の増進
・普及啓発や情報提供の実施 等 | 19,950千円 |
| (ii) 県民参加の森づくりの推進
・県民森づくり大会等の開催や子ども達が参加する森林体験活動への支援 等 | 14,355千円 |

合計

521,902千円

(税 384,202千円)
(国庫 137,700 千円)

I 森林整備

県民共有の財産である森林を健全な姿で次の世代に引き継いでいくため、森林の公益的機能の維持・増進を図る整備を実施しました。

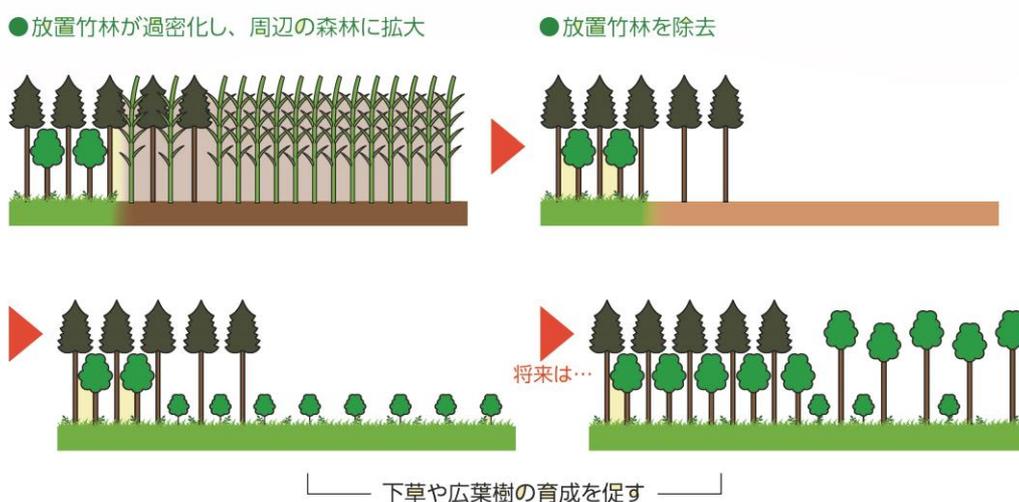
令和5年度は、(i)放置竹林の除去と(ii)里山における緩衝帯整備の他、これらの事業の効果を検証するため、モニタリング調査を引き続き実施しました。

(i) 放置竹林の除去(事業費:387,828千円(基金250,128千円+国庫137,700))

近年の豪雨の増加を踏まえて、放置竹林に起因する山腹崩壊などを防ぐため、集落周辺と水源域のうち集落に近い放置竹林を重点的に除去しました。

(事業主体:県)

令和5年度は、放置竹林の除去70ha、広葉樹の植栽70ha、除去後2年間の再生竹の刈払い232haについて実施しました。



放置竹林の除去のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4~R8)の計画: 550ha
(集落周辺を優先し、地区の同意が得られた箇所から順次実施)
- 併せて、広葉樹の植栽と、除去後2年間の再生竹の刈払いを計画

■令和5年度の実績

(ha)

項目		第4期(R4~R8)					
		R4	R5	R6	R7	R8	計
放置竹林の除去	計画	110	110	110	110	110	550
	実績	100	70				
植栽	実績	100	70				
再生竹の刈払い	実績	250	232				

※各年度の計画数量は当該計画期間の目標を単純平均したもの

■放置竹林の除去の実施状況

<七尾市三引町 地内>



■再生竹の刈払の実施状況

<かほく市気屋 地内>

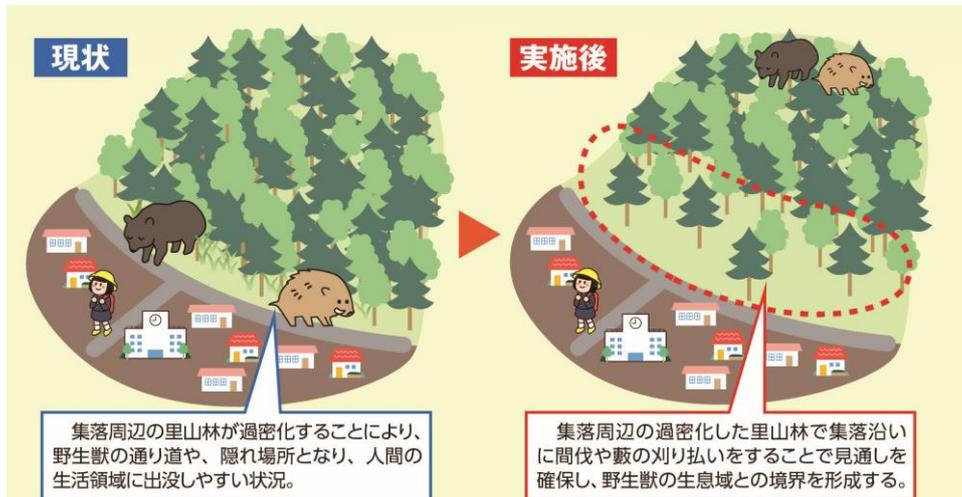


(ii)里山における緩衝帯整備(事業費:22,020千円)

野生獣の出没に対して、野生獣と人里との距離を保つ(バッファゾーンを設ける)ことを目的に、過密化した里山林において森林の見通しを良くするための立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施しました。(事業主体:市町)

令和5年度は過去3年間に野生獣の出没回数が多く、地区から要望があった14地区について実施しました。

なお、開発行為後に維持管理がなされず緩衝帯整備の対象となっている場合においては、県や市町が森林所有者への働きかけを行うとともに、所有者が不明となっている場合においては、森林経営管理法にもとづく所有者不明森林の特例措置の活用も視野に入れて整備を進めていく必要があると思われます。



緩衝帯整備のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4~R8)の計画： 80 地区
 (過去3年間に野生獣の出没回数が多かった地区の中から、各地区の要望等を踏まえて選定)

■令和5年度の実績

項目		第4期(R4~R8)					
		R4	R5	R6	R7	R8	計
緩衝帯の整備	計画	16地区	16地区	16地区	16地区	16地区	80地区
	実績	22地区	14地区				36地区

※各年度の計画数量は当該計画期間の目標を単純平均したもの

■緩衝帯整備の実施状況

<宝達志水町河原地内>



II 県産材利用促進事業

木材の最大の用途である建築分野での更なる県産材利用促進対策として、県産材を使用した住宅や民間施設への助成や、県産材利用の機運醸成に向けたPRなどを実施しました。

(i) いしかわの森で作る住宅推進事業(事業費:34,959千円)

県産材の利用を促進するために、県産材を使用した住宅を建てた施主に対し助成を行いました。

令和5年度は、助成件数 263件、県産材使用量2,976^mとなりました。



令和5年度助成実績

区分	第4期			
	R4		R5	
	助成件数	県産材使用量	助成件数	県産材使用量
5~7 ^m 未満	22件	134 ^m	46件	274 ^m
7~15 ^m 未満	133件	1,307 ^m	130件	1,261 ^m
15~20 ^m 未満	30件	513 ^m	34件	577 ^m
20 ^m 以上	34件	808 ^m	25件	585 ^m
25 ^m 以上かつ 県産材使用率90%以上	21件	742 ^m	9件	266 ^m
外構部	24件	21 ^m	19件	13 ^m
計	264件	3,525 ^m	263件	2,976 ^m

(ii)いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業(事業費:37,112千円)

民間施設における県産材利用について、啓発段階から普及拡大段階へと取組を進めるため、県産材使用率などの一定の要件を満たす民間施設に対し、助成を行いました。

令和5年度は、助成件数 10件、県産材使用量522m³となりました。

令和5年度助成施設
(木造)



社宅・寮



クリニック



クリニック



事務所



ホテル



共同住宅



アパート

(iii) いしかわの木づかい運動推進事業(事業費:5,678千円)

県産材利用の機運醸成に向けて、県産材の認知度向上に向けた取組や、各種情報提供のほか、県産材の利用拡大における功績のあった者を表彰する取組を実施しました。

【令和5年度いしかわの木づかい表彰受賞者】

(1) 県産材利用住宅部門

① 前年度(令和4年度)の県産材の需要拡大に貢献した者(3者)

(株)玉家建設(県産材使用量:637 m³)

(株)シモアラ(県産材使用量:481 m³)

(株)イング(県産材使用量:434 m³)

② 他の模範となる住宅(1者)

自然と共生するヒノキ丸太の家(宇野気の家)【かほく市】県産材使用量:26.74 m³

(設計・施工:(株)沢野建設工房)

・通常外材が使われることの多い梁や桁に県産材を使って吹抜けで見えるようにし、床や天井、外壁にもふんだんに県産材を使った上に、ZEH や長期優良住宅として認定され、環境性能や快適性を実現している。

(2) 県産材利用施設部門 (2者)

① HOKUBI KANAZAWA【金沢市】県産材使用量:27.63 m³

(施主:(株)ホクビ 設計:小笠原弘建築計画 施工:(株)シモアラ)

・金沢の街中に調和するデザインであり、県産スギで作られた壁の枠や軒天の外観が目立ち、木の良さを伝える。



② 福島こども園【能美市】県産材使用量:15.56 m³

(施主:社会福祉法人めばえ保育園 設計:(株)時設計 施工:(株)中東)

・木の空間がワクワク感とやすらぎを感じられ、子供たちの生活空間として魅力的であり、湿気に強い能登ヒバの特徴を活かして県産材が適所で使われている。



(3) 県産材利用製品部門 (1者)

ATENOTE(アテノート)～能登ヒバ楽器プロジェクト～(製造者:フルタニランバー(株))

・独自の乾燥や圧縮の技術で楽器に必要な品質を確保することで、能登ヒバの風合いを活かした様々な魅力的な楽器を作製しておりPR性が高い。



Ⅲ 普及啓発事業

森林は、様々な公益的機能を持っており、県民共有の財産として社会全体で支えていくことが重要です。このため、森林の重要性を県民の方々に十分に理解していただくとともに、森づくり活動の参加を推進することを目的として、(i)森林や木材利用に対する理解の増進と(ii)県民参加の森づくりの推進を2本柱として施策を展開しています。

令和5年度は、他部局とも連携しつつ、下記の事業を実施しました。

■令和5年度 普及啓発事業一覧

(単位:千円)

区分	事業名	事業費
(i) 森林や木材利用に対する理解の増進	(1)いしかわ森林環境基金評価委員会	19,950
	(2)いしかわの森づくり普及広報推進事業	
	(3)いしかわ森林環境功労者表彰	
	(4)森林への理解を育む木育推進事業	
	(5)里山子ども園推進事業	
	(6)いしかわ森林環境実感ツアー	
	(7)いしかわ景観キッズプログラム	
	(8)木に親しむまちづくり推進事業	
(ii) 県民参加の森づくりの推進	(1)いしかわの森づくり推進月間事業	14,355
	(2)こども森の恵み推進事業	
	(3)森づくりボランティア推進事業	
	(4)いしかわ身近な森保全事業	
	(5)フォレストサポーターによる森づくり推進事業	
	(6)企業の森づくり推進事業	
	(7)石川の森整備活動CO2吸収量認証事業	
合計		34,305

それぞれの事業の概要は以下の通りです。

(i)森林や木材利用に対する理解の増進

(1)いしかわ森林環境基金評価委員会

事業の成果を検証・評価するとともに、事業の見直しの必要性について検討するため、1回開催しました。放置竹林や緩衝帯の整備の現場も視察しました。



いしかわ森林環境評価委員会

(2)いしかわの森づくり普及広報推進事業

新聞広告やパンフレットの作成により、県民に対し森林の役割や森林環境税の意義を周知するとともに、各種イベントにおいて森林や木材利用に対する理解を深めるための取組を実施しました。

平成19年の税導入当初から17年間で約20万人が取組に参加しており、県民の森林・木材利用に対する理解の増進や県民参加の森づくりの推進につながっています。

新聞広告(7/23(日)、9/24(日)、3/29(金)北國新聞及び北陸中日新聞掲載)



いしかわ環境フェア(8月)



農林漁業まつり(10月)

子ども向け普及チラシ(表)

子ども向け普及チラシ(裏)

(3)いしかわ森林環境功労者表彰

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰しました。

令和5年度は、4 団体を功労者として選定し、知事から表彰状を授与しました。



県民みどりの祭典にて表彰(津幡町)

【主な功績】

区分	受賞者名	主な功績
団体	奥能登原木しいたけ活性化協議会 (穴水町)	奥能登地域で、地域住民と協働した森づくり活動や、地元の中高生を対象とした森林環境教育に取り組んでいる。 特に、平成24年からは地元の中高生を対象に、植樹の指導や原木しいたけの植菌などの体験活動を継続するなど、森林資源の有効活用と次世代への森林環境教育に積極的に取り組んでいる。
学校	石川県立津幡高等学校 PTA (津幡町)	教員や保護者、地域住民と協働して、在校生を対象に森林体験活動を通じた森林環境教育に取り組んでいる。 近年は、生徒会を主体に地域の竹林整備ボランティア活動を行い地域貢献するほか、3年生を対象に楮(こうぞ)を利用した手すきの和紙で卒業証書を作成するなど、地元の産業や自然環境に焦点を当てた環境教育に積極的に取り組んでいる。
学校	学校法人馬場幼稚園 (金沢市)	「森の幼稚園」と題し、園児たちが自然と触れ合う園外活動を年間通じて実施するなど、幼少期からの森林環境教育に力を注いでいる。 保護者も一緒に参加できるイベントを開催するなど、幅広い世代を対象に森林や木材利用に対する理解の増進に尽力している。
企業	コマニー株式会社 (小松市)	平成25年度に県及び小松市と森づくり活動の協定を締結して以来、小松市日末町の海岸林で森づくり活動を行っている これまでに、抵抗性クロマツの造成を目指し、社員のみならず、家族も参加して約850本の植栽を行い、年2回の下刈、つるきりなどの保育作業を継続的に行っている。

(4)森林への理解を育む木育推進事業

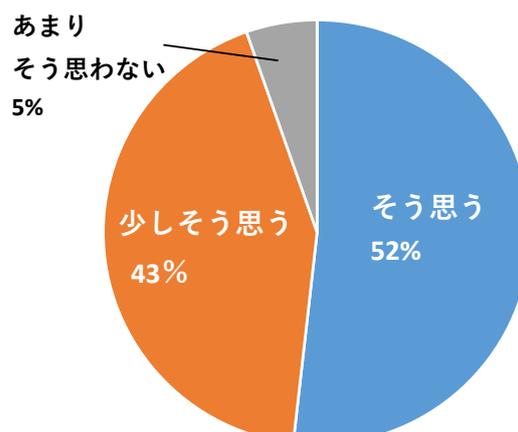
幼児から大人までが木に親しみ、木の良さを学ぶとともに、森林への理解を育むことを目的として「木育」出前講座を6回実施しました。

保護者、先生へのアンケートの結果、9割以上が「子どもが木への親しみが持てた」と回答しており、子ども、保護者、先生の木材利用への理解が増進したと考えています。

【保護者、先生へのアンケート】

Q:子どもが木への親しみを持てたか?(n=56)

実施回数	参加人数(人)	
	おとな	こども
6	175	
	68	107



○木育出前講座の様子



山中保育園(木工作教室)



河田保育園(自然体験)

【参加した先生の声】

- ・自然の中での体験は、創造性や探究心、自主性など様々な能力が養えるので良いと思う。(保育士)
- ・普段、大人がこのような活動をする事は少なくなってきたので、良い経験になった。子どもたちも初めての体験ばかりで楽しそうだった。(保育士)
- ・木ひとつとっても、いろいろな遊び方があることを学んだ。今回の木育を参考に、色々活動の幅を広げていきたいと思う。(保育士)
- ・園の中で木の香りを感じながら体験ができ、五感を刺激しながら親子でふれあい楽しむことができた。(園長)

(5) 里山子ども園推進事業

県内の保育園・幼稚園を対象に、自然体験プログラムを53回実施しました。

先生方からは、今後、園独自で自然体験活動を実施したいとの声があり、幼少期からの自然とのふれあいが推進できたと考えています。

区分	R5
実施回数	53
参加人数	1,179

○里山子ども園の様子



夕日寺健民自然園(金沢市)

(6)いしかわ森林環境実感ツアー

小学生や一般県民を対象に、森林整備状況や木材産業の現場を見学するバスツアーを開催しました。

子どもたちへのアンケートの結果、実感ツアーを通して、9割以上が森林や林業について興味がわいたと回答しており、次代を担う子どもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

また、先生へのアンケートの結果、全員が今後も森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいと回答しており、森林や林業への理解増進に取り組む人材や環境づくりが進んだと考えています。

一般向けのツアー参加者からは、森林づくりや森林資源の利活用についての関心が高まったとの回答を得ており、森林・林業についての理解の醸成を図ることができたと考えています。

○森林環境実感ツアー(こども向け)

開催日	R5 参加校	参加人数
9/25(月)	金沢市立三和小学校	92
10/19(木)	野々市市立菅原小学校	68
10/31(火)	野々市市立御園小学校	102
11/20(月)	小松市立蓮代寺小学校	19
計	4校	281



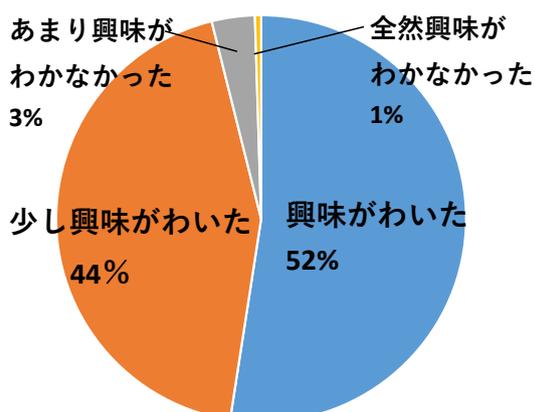
間伐作業の見学



製材工場の見学

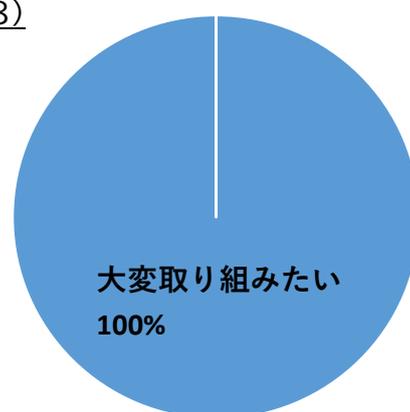
【子どもたちへのアンケート】

Q:森林・林業について興味がわきましたか? (n=206)



【先生へのアンケート】

Q:今後もこのような森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいですか? (n=8)



【実感ツアーに参加した児童の声】

- ・森林は私たちの暮らしを守っている大切な役目をしていることが分かりました。
- ・木材加工は、昔は全部手作業だったけど、今はほとんど機械化されていてすごいと思った。
- ・小さいチェーンソー1つで大きな木を切り倒したことが印象的だった。
- ・森や木のことをもっと知りたいと思った。

【実感ツアーに参加した先生の声】

- ・実際の現場を見たり、働いている方々に直接話を聞く機会は滅多にないので、充実したツアーでした。
- ・伐採現場、製材工場、木で作られた建築物と一連の流れを見ることができてよかった。
- ・社会や総合、理科など、様々な教科をつなげて学習することができるので、今後もこのような体験学習に取り組んでいきたい。
- ・実際に伐採する現場を見ることができて感動した。

○森林環境実感ツアー(一般向け)

開催日	R5 内容	参加人数
10/1(日)	林業遺産「能登のアテ林」の見学、能登キリコ会館の見学、アテ林業の説明、植樹等	23
10/8(日)		20
計	2回	43



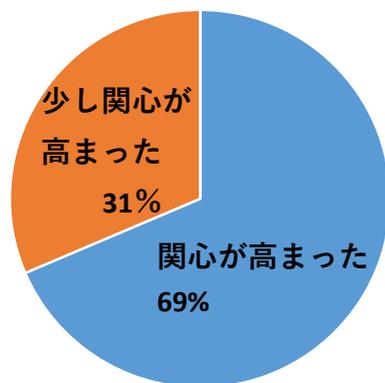
アテ林の見学



アテ苗木の植樹

【参加者へのアンケート】

Q: 森林づくりや森林資源の利活用についての関心は高まりましたか？ (n=35)



【実感ツアー参加者の声】

- ・アテとスギの違いを理解できた。
- ・アテの植樹体験は初めてで、50年後が楽しみになった。
- ・人材不足の中、いろいろ考えて林業を継承されていること、また、多くのボランティアさん等により支えられていることを知ることができた。

(7)いしかわ景観キッズプログラム

小学生を対象に、里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する体験学習を2回実施しました。

授業と地元の方のお話を聞いて、風景や景観に対する興味が湧いたとの声があり、里山の景観保全と森づくりの大切さについての理解を推進することができたと考えています。

区分	R5
学校数	2
参加人数	33

○いしかわ景観キッズプログラムの様子



小松市立那谷小学校



輪島市立鳳至小学校

(8)木に親しむまちづくり推進事業

県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深めることを目的として、建築士等を対象に、木造建築の最新事例や設計のノウハウに関する講習会を開催しました。

参加者からは「木造建築への理解が深まり、良い機会となった」など好評であり、木造建築を行う建築士等に対する効果的な取組として評価が得られました。

R5開催日	講習会題目	講習会内容	参加人数
9/16(土)	木材を活かした構造デザインの可能性	最新の事例を交えながら中大規模木造の構造デザインについて学ぶ。	40
10/20(金)	ダイダン北陸支店新社屋見学	ダイダン社屋における先進的な取組を学ぶ。	43
1/20(土)	都市木造の可能性	都市部における木造建築に必要な防耐火について学ぶ。	36
3/2(土)	耐力面格子の制作実習と加力試験	耐力面格子の設計や県産材の特徴について学ぶとともに、実物大の耐力面格子の加力試験を行う。	29
3/16(土)	木造を仕掛ける	設計者以外の視点や取組を学び、設計者がどのように木造建築に関わっていくべきかを考える。	30
合計			178

○講習会の様子



講習会



耐力面格子の加力試験

(ii) 県民参加の森づくりの推進

(1) いしかわの森づくり推進月間事業

毎年10月を「いしかわ森づくり推進月間」、「県産材利用推進月間」と定め、県下5地区で県民木づかい推進・森づくり大会を実施しました。

R5 開催日	開催テーマ	大会内容	参加数
10/15(日)	木材利用の意義を学ぶ(津幡町)	木工体験	20
10/23(月)	能登の里山 広葉樹の森づくり(輪島市)	広葉樹(コナラ)植栽	54
10/25(水)	木を使い森を育てて郷土の森を守ろう(小松市)	ベンチ作製、下刈り	30
11/ 3(金・祝)	火打谷 苗木の里の森づくり(志賀町)	アテ林の整備	30
11/ 8(水)	小舞子海岸の森づくり(白山市)	ベンチ作製、下刈り	15
計	5地区		149

○県民木づかい推進・森づくり大会の様子



広葉樹植栽(輪島市)



県産材ベンチ作成(白山市)

(2) こども森の恵み推進事業

こどもたちを対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO等を支援しています。

令和5年度は21団体に支援しており、4,046人のこどもたちが森林体験活動等を経験し、次代を担うこどもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

区分	R5
団体数	21
参加人数	4,046



森林体験活動(植樹)



森林体験活動(ツリークライミング)

(3) 森づくりボランティア推進事業

里山林の保全や利活用等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等を支援しています。

令和5年度は16団体に支援しており、延べ 1,522人が森づくり活動に参加し、14.9haの森林整備が行われており、県民参加による森林整備が進んでいます。

区分	R5
団体数	16
参加人数	1,522
森林整備等面積(ha)	14.9



遊歩道の整備

(4)いしかわ身近な森保全事業

地域住民と協働で集落周辺の放置された里山林等の整備・保全・活用を図るNPO等を支援しています。

令和5年度は3団体の取組を支援しており、延べ 129 人の地域住民が参加し、11.2ha の森林整備が行われるなど、県民参加による森づくりが進んだと考えています。

事業主体	事業内容	整備面積 (ha)	参加人数 (人)
(公財)石川県緑化推進委員会	不要な樹木の伐倒整理、雑草の刈り払い等	3.0	54
火打ちの里森の会	桜苗木の植樹、のとキリシマツツジの普及活動等	3.7	60
輪島林業研究グループ	健康の森エリア内の手入れ不足林の整備等	4.5	15
		11.2	129



森林の整備

(5)フォレストサポーターによる森づくり推進事業

森林ボランティア活動を主体的に推進できる、一定の知識と技術を持った人材(フォレストサポーター)を育成するため、養成セミナーを行いました(講義6回・実技7回)。令和5年度は新たに 10人をフォレストサポーターとして認定しました。



講義の様子



実技の様子

(6) 企業の森づくり推進事業

企業による森づくり活動を推進するため、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を行いました。

令和5年度は新たに3企業が協定を締結し、全体では延べ1,708人が森づくり活動に参加しました。森林と木材利用に対する理解の増進と、県民参加の森づくりの主体の育成が進んでいます。

区分	R5
新規協定締結企業数	3
締結企業数	65
活動フィールド数(地区)	69
協定面積(ha)	132
森づくり活動参加人数	1,708



枝払いの様子

(7) 石川の森整備活動 CO₂ 吸収量認証事業

社会貢献活動として森林整備活動を実施した企業に対して、社会に対する貢献度を二酸化炭素吸収量として認証しています。

令和5年度は17団体を認証し、企業等が行う森づくり活動を推進しました。

区分	R5
認証数	17
認定吸収量 (t- CO ₂)	52.3